さきがけNIEワークシート　小学生版　2025年６月８日発行　第14号　問題Ｂ

書いてみよう

年　組　名前

4月に開幕した大阪・関西万博のシンボル「大屋根リング」が、国産のスギなどをふんだんに使用した世界最大級の木造建築物として話題にのぼりました。「木のぬくもり」のある空間は、私たちに心地良さを与えてくれます。あなたは、何に「木のぬくもり」を感じますか。下の条件に合わせて書きましょう。

矢島木材乾燥

学校の体育館向け

スギを使った床材開発

フローリング（床材）製造・販売の矢島木材乾燥（由利本荘市）は、学校の体育館向けにスギを使った床材を開発した。軟らかく衝撃に弱い針葉樹は床材に向かないとされてきたが、樹脂シートで※硬度を高めた。今回の商品開発により県内産のスギの活用促進も期待される。

開発した床材は合板にスギの単板を重ね、その上にペットボトル素材の樹脂シートを貼っている。シートの厚さは0・5ミリ。昨年11月からプロテクション・ネオ「スギ」の商品名で販売を始めた。

樹脂シートは他社から仕入れ、貼り付け作業は自社で行っている。シートを貼った床材の表面硬度を検証したところ、広葉樹のカバを使った従来の床材を上回った。温度や湿度の変化で※膨張、※収縮し、ひび割れが生じてしまうといった木材の弱点もカバーできる。

当初は一般的に床材に使用されることが多いカバやナラといった広葉樹の単板にシートを貼り、「プロテクション・ネオ」という名称で販売していた。同社では顧客の要望があれば単板に国産材を使用するが、多くは輸入材を使用している。世界的に木材価格が※高騰する「ウッドショック」などで国産材の※需要が高まり、スギなど県産材を活用できる商品をつくろうと新しい床材の開発を始めた。

単板の表面にわずかな凹凸があると、樹脂シートを接着剤で貼った際に白い線が出てしまうことが課題の一つだった。スギは軟らかい「夏目」と堅い「冬目」の差が顕著で堅さが均一ではないため、単板の表面を平らで滑らかにする技術を確立するのに苦労したという。

佐藤仁明社長（63）は「針葉樹を使った床材は珍しいと思う。発注者の要望にもよるが、県外でも秋田県産の針葉樹を使った床材を広めていきたい」と話した。

※【硬度】金属など物質の硬さの程度。
※【膨張】熱などで物体の体積が増えること。
※【収縮】縮むこと。
※【高騰】価格が高く上がること。
※【需要】必要とする物事を求める気持ち。

〈秋田魁新報2025年1月10日付より。記事は手直ししています〉

条　件

- 題名は「木のぬくもり」にすること。
- 「木のぬくもり」を感じるものを具体的に書くこと。
- 百字以上、百二十字以内にまとめて書くこと。
- ◆の印から書き始め、改行をしないで続けて書くこと。

題名　木のぬくもり

◆

100字

120字

出題・監修：佐藤克己（元小学校長）